も　もとに戻る人脈に頼らない

まちづくりにおいて、人との出会いとネットワークづくりは大切な要素と書いたが、どのような人とネットワークを組むと良いのかも重要になる。もちろんキーパーソンと言われているような人とつながるのは大切だが、それだけではない。「縁を芋づる式に引き寄せる」という方法もあるが、それにも気をつけなければならない点がある。

いろいろ人のネットワークをたぐっていくと「あの人とも繋がっていたんだ。世の中って狭いよね」ということが良くある。そういうネットワークは強くしっかりしたネットワークに見えるがどうだろうか。確かにお互い知り合い同士でつながっているネットワークは強い繋がりを感じさせる。しかし、そのネットワークの中だけで閉じてしまっていると、なかなか新しいものが入っていきづらいという面がある。何か新しいチャレンジが必要な場合は、必ずしも良いネットワークとは言えない。

一方で「こんな人とも繋がっていたなんて、この人のネットワークってどこまでひろがっているんだ！」ということもある。そういうネットワークは異質なものも繋いでいく力がある。多様性に富んだネットワークの方がまちに新しい風をもたらす力があることが多い。いろいろなことに縛られず新しい発想を受け入れることができるし、得意分野も様々であることも多く多様な課題に柔軟に対処できる力がある。さらに多様性を許容するネットワークは、それ自体、自己増殖力に富んでいるともいえる。誰か一人が多様な人と繋がっているということに止まらず、それぞれが多様なネットワークを持っていて、それらが相互に作用してどんどん広がっていく可能性がある。

まちづくりにはコミュニティの繋がりが大切なのは言うまでも無い。ただ、そのコミュニティはややもすると知り合い同士で固められた閉じたネットワークになりがちになる。異質なものを受け入れることができる多様性に富んだネットワークをつくれるコミュニティがこれからの社会には重要になる。そのためには異質なものと出会う機会が多い方が良い。そして体験を共有することによって互いに理解が深まり、ネットワークがオープンになる力を持つようになる。